

第3次「豊後大野っ子」読書活動推進計画

～豊後大野っ子が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり～



令和5年度～令和9年度

●読書活動推進計画の基本的な考え方●

1. 計画の趣旨

人は多くの人との出会いや体験により、人として成長していきます。人との出会いや体験と同様に本との出会いは大変貴重なものです。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるように、積極的にそのための環境の整備を推進する必要があります。

幼児期や、学校においては、「読み聞かせ」体験をはじめとして、自分で読みたい本を探し、進んで読書を行う態度を養い、読書習慣を身につけることができるよう働きかけることが大切です。また、子どもの発達段階に応じて、興味や関心を持ったり感動したりする本などを身近に整え、読書の楽しさを感じるきっかけをつくり、その読書活動を広げ深めることが生涯にわたる読書活動につながります。さらに、子どもが読書を通じ、様々な知識や教養を得るとともに人とのつながりを深めたり、感謝の気持ちを育むことができたりする地域社会をつくることを目的に本計画を策定します。

2. 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とし、周期的な見直しを行います。

3. 計画の目標と基本方針

本市では、第2次計画に基づき、子どもの読書をめぐる環境の整備を子どもの成長に応じて各機関が連携して推進してきました。そのような中、現代の情報化社会の著しい変化などを踏まえ、子どもが生涯にわたって本に親しむ習慣づくりを目標に新たに第3次計画を策定し、次の方針のもと読書活動を推進します。

(1) 計画の目標

「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ読む習慣づくり

子どもの発達段階に応じた本との関わり方を周りの大人が十分考慮した上で働きかけを行い、多くの本や人とのふれあいの中で読書の楽しさについて気づかせ、子どもの自主的な読書活動を促進し、生涯にわたる読書活動につなげます。

(2) 計画の基本方針

計画の目標である「生涯にわたって本に親しむ習慣づくり」を目指し、次の基本方針のもとそれぞれの発達段階や環境に応じた読書活動の推進を行います。

□基本方針1

子どもの読書活動の大切さや重要性についての啓発活動の推進

子どもと保護者や周囲の大人へ、読書活動の大切さや重要性について周知啓発を行い、地域全体で読書活動の推進を図ります。

□基本方針2

子どもの成長に応じて関係機関が連携した読書活動の推進

子どもの読書活動に関わる関係機関や団体、家庭等が、それぞれの役割を認識するとともに、関係機関同士が連携して情報交換や協働事業を行う中で、子どもの自主的な読書活動が楽しくより効果的にすすめられるよう推進します。

4. 計画の位置づけ

「子どもの読書活動推進に関する法律（平成13年法律第154号）」に基づき、市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として策定します。

また、平成28年度策定の「第2次豊後大野市総合計画」における市の将来像「人も自然もシアワセなまち」や「第4次豊後大野市総合教育計画」における基本理念「郷土を愛し、つどい、つながり、ふれあい、学び合い、次世代へ未来へ拓く、豊後大野の人づくり」を目指した取り組みとして読書活動を推進するものとしています。

●子ども読書活動推進のための方策●

1. 家庭・地域における取組

子どもが読書に親しむ環境づくりに、家庭や地域が取り組んでいくことが重要です。

- ①社会教育課では、家庭や地域における子どもの読書環境の大切さの啓発、読書活動の推進に取り組みます。
- ②公民館など生涯学習施設を中心に、地域の読み聞かせボランティアなどの自主的な活動を支援すると共に、活動しやすい環境整備に努めます。

2. 学校における取組

○小学校における取組

小学校では、児童が読書を楽しみ読書の幅を広げていくために、適切な支援と環境整備を行っています。

○中学校における取組

中学校では、多様な情報を活用し、生徒の見方・考え方の深化を目指した読書活動ができるように支援、環境整備を行っています。

○学校図書館の取組

学校図書館（学校司書部会）では、児童生徒が興味を持ち幅広い分野の本を手にとってくれるような選書、読書活動の工夫、館内での過ごし方の指導など、図書館内の環境整備を行っています。

○こども園・保育園における取組

こども園・保育園では、読み聞かせを通して、子どもの感性を豊かにし、想像力を育てる取り組みをしています。

○幼稚園における取組

幼稚園では子どもが「絵本が大好き！」と感じられるよう、絵本に親しむ活動を行っています。

○保健・福祉事業における取組

保健・福祉事業においては、乳幼児期に本に触れるきっかけづくりとして、以下の取り組みを行っています。

□こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業）

赤ちゃん訪問の際に、ブックスタート事業（主管課：子育て支援課）による絵本のプレゼントを行っています。同時に市図書館作成の「赤ちゃん向け絵本リスト」をお渡しし、図書館利用についてお知らせ、赤ちゃん向け絵本、子育てを応援する本を紹介しています。

□すくすくひろば（乳児学級）

すくすくひろばでは、偶数月に読み聞かせボランティアによる赤ちゃんへの読み聞かせを行っています。読み聞かせの効果や読み聞かせをするときのポイント、子どもの年齢に合わせた絵本の選び方などについてもお話してもらいます。

□幼児健診

1歳6か月児健診・3歳6か月児健診では、健診の待合スペースで読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

○児童館における取組

児童館では、見やすく手の届きやすい場所に本棚を配置し、本を気軽に手にして読めるようにしています。

○市図書館における取組

図書館は令和2年度に新しく建て替えられ、11万9千冊中、児童向けは4万6千冊程度所蔵しています。乳幼児から小学生は家族との利用が多く、遠方に住む子どもは週末によく利用しています。中学生以上は学校帰りや週末、試験前に学習の場として利用する姿が見られます。

また、図書館から離れた地域の子どものための読書支援として、移動図書館に替わり、館外配送業務を行います。これまで移動図書館を利用していた市内の幼稚園、保育園、認定こども園に新たに公民館図書室を加え、月に一度、1回につき50冊から150冊程度を配送します。それらの図書を定期的に入替え、身近なところで常に図書館の図書が提供できるよう努めます。

○公民館図書室における取組（指定管理者）

中央公民館を除く6つの各町の公民館に図書室があります。図書室には、社会教育や生涯学習に関する資料をはじめ、児童書から一般書などを配備し、市民の学習意欲に応えられるように努めています。

○地域・家庭における取組

地域では、各学校、施設、図書館等でボランティアによる読み聞かせ活動や絵本に親しむ活動等が活発に行われています。

各家庭においても、読み聞かせをしたり、本を購入したり、本を読んだら褒めたり、図書館に連れて行ったり、本の話をしたりと様々な取組が行われています。今後も、豊後大野市PTA連合会等と連携を図りながら全体的な取組を進めていく必要があります。

●「豊後大野っ子」の読書活動の今後の取組み●



読み聞かせ



大人が子どものために本を読んであげることです。子どもの希望に沿って一緒に本を楽しみます。

(a) 読み聞かせの意義 赤ちゃんや幼児でも、読んでもらうことで本の世界を楽しめます。じっと聞くことで、自分で読むよりも情景や人物の心の動きを丁寧に思い描くことができ、読書の基礎となる“イメージして楽しむ力”が育ちます。本が読めるようになった子どもにも積極的に行うべきで、実際、高学年や中学生も耳を傾けて楽しめます。

(b) 読み聞かせをするために みんなが心をつなげて1冊の本を楽しむのが集団での読み聞かせです。みんなの感動が合わさり、子どもも読み手も、一人で読むとき以上の感動を味わいます。これをきっかけに本が好きになる子どもが大勢います。複数の子どもを集中させて本の世界に引き込む読み聞かせを行うには、学習と訓練が必要です。絵本や本を知るように努力し、読み聞かせに向く本を選び、作品の魅力が自然に伝わるように読んでいきます。研修を受けながら実践をつむうちに、自然に上手な読み聞かせができるようになります。



デジタル社会に対応した読書環境の整備



G I G Aスクール構想の実現を目指します。

～G I G Aスクール構想とは～

「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育I C T環境を実現する。」

豊後大野市では、導入した学習用タブレットを「ゴン（GON）ちゃん」と名付けました。このゴン（GON）ちゃんとは、豊後大野市の進める「へптаゴン教育」からゴンをとり、次の単語を組み合わせ、GON「つながった気のきいた小道具」という意味を持たせています。

G=G a d g e t（ガジェット）・・・気のきいた小道具

O=O f

N=N e x u s（ネクサス）・・・・・・連結（つながり）

社会のデジタル化、G I G Aスクール構想等の進展等を踏まえ、言語能力や情報活用能力を育むとともに、緊急時等を含む多様な状況における図書への継続的なアクセスを可能とするために図書館及び学校図書館等のD Xを進める必要があります。



ブックトーク



テーマを決めるなどしてあらかじめ用意した数冊の本を、お話の流れに沿って紹介することです。

(a) ブックトークの意義 本に対する興味を喚起し、読書のきっかけをつくる目的で行います。世の中には面白そうな本がたくさんあると気づかせることができれば、広い意味で目的を達したといえます。

(b) ブックトークをするために テーマを決め、本を選び、構成を考えます。タイムテーブルと台本をつくり、練習を重ねてから実施します。特に重要なのは、本選びです。対象となる子どもの関心事や読書力を考慮し、基本図書を中心に、紹介するに値する本を選びます。多様なジャンルにおける良質な児童書を数多く知っておく必要があります。



ストーリーテリング



本に収録された昔話や物語を覚えて語ることです。

(a) ストーリーテリングの意義 語り手が作品を自分のものにしてから語るため、その思いや解釈がより伝わりやすく、語り手と聞き手の視線が合いやすいので、読み聞かせとはちがう感動が生まれます。聞いている子どもは、本の挿絵にしばられることなく独自の世界をイメージして楽しめます。聞くことに集中し、言葉の響きや表現にも敏感になります。こうして文学を楽しむ素地が自然に育ちます。

(b) ストーリーテリングをするために 目的は、物語を伝えることです。大きな声色や話芸で聞き手を引き付けるのではなく、話に身をゆだねて素直に語っていきます。素材選びが重要です。お話自体に魅力があり、子どもが楽しめる、語るに値する素材を選びます。選んだら、文章を覚え、そらで語れるように練習を繰り返します。暗唱するのではなく、お話の世界を思い描きながら伝えるように語ります。大変な作業ですが、聞き手にも語り手にもその労力に値するだけの喜びを与えてくれます。

1 小学校・・・「主体的に読書活動を行う環境の整備」

国語科と読書活動とを関連させた学習や、その他の教科における調べ学習の取組など、現在の取組を継続し、子どもたちが主体的に読書活動を行う環境を整えていきます。

2 中学校・・・「自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実」

現状の取組活動を継続しながら、以下の点について改善できるように努めます。

3 学校図書館・・・「楽しめる読書活動の創意工夫」

現状の活動を継続しつつ、より活動を強化していきます。資料収集や環境整備だけでなく、全学年、家族が楽しめる読書活動の創意工夫に努めます。

4 こども園・保育園・・・「絵本の読み聞かせの充実」

0歳児から5歳児まで幅広く過ごす保育園では、各年齢に応じた絵本の読み聞かせを通して、子どもからの発信（感動の思いや表情、言葉など素直な気持ち）を受け止めていきたいです。絵本は子どもの育ちに欠かせないものです。

5 幼稚園・・・「読書への興味・関心をより湧かせる工夫」

テレビやスマホゲーム等では培われない、絵本だからこそ広がるイメージや表現、言葉の美しさへの気づきを大切に、読書への興味・関心がより湧くよう家庭とともに取り組んでいきます。

6 保健・福祉事業・・・「読み聞かせによる感性豊かな子育て支援」

乳児期から幼児期は本と親しみ始める大切な時期です。読み聞かせにより子どもは感性が豊かになり、言葉も習得していきます。また、保護者は読み聞かせにより、子どもと触れあいの時間を持つことができます。保護者と子どもがともに読書に興味をわくような、取組を行っていきます。

7 児童館・・・「年齢に合わせた読書環境の整備」

児童館の特色として、幅広い年齢の利用者がいるので、年齢に合わせた環境を整え、読書を身近に感じられるように興味・関心がもてる取組を行っていきます。

8 市図書館・・・「豊後大野市の読書・情報拠点としての役割の充実」

子どもたちが親しみやすく、使いやすい図書館をめざして取り組んでいきます。

9 公民館図書室（指定管理）・・・「市図書館との情報共有・情報拠点としての役割の充実」

公民館図書室のサービスについては、市図書館との情報共有を図り、「貸出だけでなく、滞在できる図書館を標榜し、市民みなさんが気軽に立ち寄れる図書室を目指します。

10 地域・家庭・・・「読書活動を通じた子育て支援」

豊後大野っ子は地域で育てるという意識のもと、読み聞かせ等による学校への支援活動を継続します。



ふれあい.学びの杜(もり)豊後大野市図書館 令和3年2月2日オープン